

令和 3 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1691000234
法人名	株式会社天正
事業所名	イエローガーデン城端
所在地	南砺市是安1151番1
自己評価作成日	令和3年9月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者様の家事作業、軽作業、作品づくりを通して力を発揮できるよう支援しています。日頃から発声を意識し健康体操や明るい歌声がホームに響いています。今年は流しそうめんを企画し、入居者様から歓声と拍手が沸き起こり、たくさんの笑顔が見られました。お便りとブログでホームでの様子や声を発信。面会制限の中、ご家族様に安心を得られるようにしています。利用者様の困りごとを把握し寄り添えるよう努め、このホームで暮らして良かったと喜んでもらえるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は四季折々の移ろいを感じる自然環境の良い場所に位置している。管理者を中心として職員は、「感謝」「楽笑」「尊厳を守る」という理念を実践することを目標とし、利用者に対しても、また職員同士でも常に笑顔で温かく話しやすい雰囲気作りを心がけておりチームワークの取れた人間関係の良さが伺える。そのことが利用者一人ひとりの状態の把握や尊厳を大切にケアの実践にも繋がっている。さらに、ケアの質の向上を目指して衛生管理や食事、身体拘束廃止など6つの委員会を立ち上げ利用者が安全に安心して日々暮らせるように試行錯誤を行い、また、日常生活の様子をブログで発信してコロナ禍であっても家族が利用者の姿をいつでも閲覧出来るようにその都度更新している。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝」「楽笑」「尊厳を守る」を理念に掲げ、職員の目の付くところに貼っている。朝のミーティング時に唱和し、職員間で理念の共有を図っている。	朝のミーティング時に理念について話し合い、全員で意識付けを図っている。例えば、「楽笑」については「利用者から笑顔を引き出す」等説明や意見をもらうようにしている。また、理念はコンプライアンスルールと一緒に玄関や各ユニットの壁に貼り、常に目に付くようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族から野菜や花等の差し入れがある。地元のスーパーから食品を配達してもらい、地域の繋がりを大切にしている。ホーム周辺のゴミゼロ運動を実施した。	町内会に加入しており、地域のお知らせが回覧板で回ってくる。また、利用者が散歩がてらに事業所の周りのゴミ拾いや草むしりなどを行い、地域に貢献している様子は運営推進会議の報告書にも載せて地域の方や家族に知らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染症の影響で運営推進会議を活用した自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ご家族との意見交換ができない状況にある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染症拡大のため運営推進会議は実施できていない。二カ月に1度、活動状況報告書を郵送している。運営に関する取り組みは書面や面会時に意見を頂き、職員に伝え共有している。	コロナ禍のため令和3年度はまだ実施できていないが、事業所の活動状況報告書は2か月ごとに区長や民生委員、地域包括支援センター、駐在所の警官、家族に郵送している。また、運営に関する意見等を記入する用紙も同封しサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ感染症の影響で今年度、市町村の連絡会の開催はない。空き情報報告を行い他事業所との情報共有に努めている。	新型コロナワクチン接種に関しての取りまとめの相談を頻回に行ったり、また重度の認知症利用者の周辺症状の対応について相談し助言をもらうなど日頃から連絡や相談ができる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束の研修を実施。三カ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束の状況について検討し、ケアの見直しを行っている。	計画的に年2回は事業所内研修を実施して、研修後全員が報告書を提出するなど職員一丸となり身体拘束廃止の重要性を認識している。また、やむを得ず身体拘束を実施する場合は、実施する時間帯と実施期間、内容の同意書を家族に説明して理解してもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を通して虐待防止への理解を図っている。職員一人ひとりが虐待をしない、させないという意識を持って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一部の職員が知っている程度で知識が不十分な状況である。11月に研修予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、一つひとつの項目を利用者・ご家族様に説明し、理解納得していただいたことを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に相談ポストを設けている。ご家族から面会時に意見や要望を聞き取りしている。利用者から意見を出しやすい雰囲気をつくり、不満・苦情を聞き取りし改善を図るように努めている。	サービス担当者会議の時に家族から意見、要望を聞くようにしている。また、運営推進会議の報告書と一緒に郵送した要望の記入用紙に書かれた内容や、玄関に設置した相談ポストなどから意見を確認する工夫を重ね運営に活かすようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の提案や要望を聞き取り、月1回の全体会議で検討して、運営に反映させている(上長に相談し回答をもらっている)。	管理者は、日常的に職員が話しやすい雰囲気を作り、意見や要望について聞いた内容はノートに書き留めるようにしている。事業所内の体制や仕事の内容に関することは、月1回の全体会議で話し合い問題解決に至ったこともあるなど運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、職員の面談を実施。困っていること、労働時間の変更、資格取得の意思を確認している。能力や努力を評価する体制ができています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や外部研修の希望を把握、勤務調整して働きやすい環境に努めている。月1回研修を実施。研修の講師は職員が交代で行い、研修材料を準備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響で今年度、市町村の連絡会の開催はない。上長を通して他拠点の情報を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント作成時、ご本人を交えて本人の思いを聞き取りしている。安心して過ごして頂けるよう信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごとや不安を聞き取りして、ホームでどのような対応ができるか提案している。家族の介護軽減にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント作成時、ご家族との話し合いを実施。ご家族の意向や仕事の事情、健康にも気を配りながら関係づくりを築いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を交えてできる関りを意識して取り組むようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限中ではあるが、少しの時間でも面会に来て下さり利用者は喜ばれている。面会時には家族に日頃の様子を伝えている。ブログで施設の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限につき、訪問は少ないが電話で会話したり手紙や暑中見舞い、年賀状で交流を図っている。	コロナ禍であり面会は予約制を取り、玄関での対応としている。また、電話でのやり取りや利用者が家族宛に暑中見舞いのはがきを郵送、さらに事業所からブログを発信し、日々の生活の様子を何時でも家族が見て安心出来る取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団に馴染めない方もおられるが職員が居室で1対1の話しやすい環境をつくっている。ストレスを溜め込まないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、ご家族との関係性を大切に、相談があれば支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント作成時に意向の確認を行っている。意思疎通困難な方にはご家族から聞き取りしている。C-1-2シートを活用して思いの把握に努めている。	利用者の希望や意向を日々の生活の中で聞き取り、個々のケース記録に残している。また、年に一度アセスメントシートを活用して思いの把握に努めている。	長期目標、短期目標が関係性を持ち記載されているとモニタリングも実施しやすいことから、利用者本人から出た言葉を大切に、その思いを達成できるよう、アセスメントに重点をおいた本人の意向の把握に努めることに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネの情報、ご家族の面談や訪問、日々の関りの中、ご本人の話されることから把握するようにしている。在宅での生活の様子は、入居時に、センター方式アセスメントの記入をご家族に依頼し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常関りや職員間で情報を共有しながら、一人ひとりの生活リズム・心身の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは介護職員に実施してもらっている。職員の意見や介護記録を通して介護計画を作成している。状態が変わったら随時見直しを行っている。	食事に関して、ミキサー食の利用者が全粥と極きざみ食を食べられるようになるなど、その都度、モニタリングを行い本人の希望も取り入れながら個々の利用者の状態に合わせた計画を作成し、より良い生活を目標としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を個々に記録している。気づきや工夫についての記載は職員でスキル差がでている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診などご家族が付き添い対応できない場合は、職員が通院介助等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染予防のためボランティア受け入れや地域住民との交流ができない状況にある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者ご家族の希望するかかりつけ医を選択し受診・往診を実施している。必要に応じ受診時情報提供書類を作成している。緊急時、訪看、総合病院、開業医ともに24時間オンコール対応できる体制が整っている。	事業所の協力医、または、入居前からのかかりつけ医を選択できるようになっている。受診の際には情報を記入した「病院受診相談記録」を家族に渡し、医療機関との連携がスムーズに行くように支援している。受診結果の記入もされており職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来ている。 日常的な健康管理・相談等連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを作成し入院した際に渡している。 ソーシャルワーカー、ご家族との連絡を密にとり情報の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「看取り対応への指針」をご家族に説明している。重度化や状況に応じて意向の確認を行い、医師や看護師と連携し対応している。 8月に看取り研修を実施している。	事業所は、看護師の配置や医師との連携も図っておりオンコール体制や重度化指針も整備されている。職員に関しては看取り研修を年間計画の中に組み込み、全職員で終末期のあり方についての学びを共有し、事業所として今後看取りケアに取り組む姿勢を示している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	8月に訪問看護師による研修を実施した。緊急時は状況を把握し、落ち着いて対応するよう話し合った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練は9月と11月に実施する予定。新型コロナウイルスの影響で消防署の立ち合いと指導はない。地域の方をお願いするも今年度の参加はない。職員の緊急連絡網を整備実施。	消防訓練については、管理者自ら地域の区長に協力依頼に行き、協力体制を築くことの約束を取り付けている。また、飲料水や非常食、ガスコンロ等2～3日分の備蓄品を準備してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー尊重について、職員にアンケートを実施する。職員間の申し送り、入浴、排泄時等のプライバシーについて振り返った。	職員に排泄を促す声掛けや、介助時や入室時の配慮など「プライバシー尊重についてのアンケート」を年に一度実施し、自分たちのケアについて振り返り、直すべきことを全体会議で話し合い意識付けしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	創作活動は、いくつか提案し、やりたいことを選んでもらっている。好みのおやつが乗った小皿を選べる方が増えてきた。選ぶことを「楽しい」と言う方もいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムに合わせて、希望に沿って関わるようにしている(他ユニットで親しい方と過ごす時間を持つ・居室で好きなTV番組を観る等)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、髭剃りやブラッシング等の声掛けをしている。爪切りは様子を見て職員が切っている。車椅子使用のため洗面所にうつる自分が見えない方に、手鏡で自分の姿を見る機会を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、ごますり、食器拭きを手伝ってもらっている。栄養バランス、水分補給の大切さについて職員研修を行っている。水分摂取量を記録し、不足にならないよう意識して提供している。	利用者の希望を取り入れながら職員が献立を決めている。食材は近くのスーパーから配達してもらっているが、近所の方からいただいた野菜も使い職員が調理をしている。利用者には食器拭きや簡単な皮むきなどを手伝ってもらっている。また、彼岸の日に作ったおはぎの写真はブログに掲載している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、水分補給の大切さについて職員研修を行っている。水分摂取量を記録し、お茶が進まない方には、お茶ゼリーを併用しながら不足にならないよう意識して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け誘導を行っている。汚れの確認、残渣物が出なくなるまでうがいを声掛け保清できている。うがいができない方は口腔ティッシュで口腔内を拭き取りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけ、排泄リズムを把握しトイレ誘導を行っている。排泄動作を確認し、自身で行えるように関り、難しい部分を介助するようにしている。排泄動作自立に向けて、布パンツ、パッドの提供、試行している。	排泄チェック表をつけて利用者個々の排泄リズムの把握に努め、表情の変化や「ブーブー」という音もサインとしてトイレでの排泄ができるように排泄の自立に向けた支援を続けている。紙パンツから布パンツに移行した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をとり、リズムの把握に努め十分な水分補給の促しと、牛乳・飲むヨーグルトなどを提供している。余暇時間に体操・足の運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否や受診と重なる時は順番を変更する。後日にする等、試している。ご本人のペースに合わせてゆっくり入浴してもらっている。入浴剤、ゆず湯等変化もつけている。	日曜日以外で原則、週2回は入浴できるが、体調の良し悪しや気分により入浴日をずらしたり着替えのみ行ったりして臨機応変に対応している。また、入浴中に職員との会話が弾むなど利用者にとって楽しみのひとつとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活リズム、体調に合わせて適時休養を介助している。室温、明るさに配慮し、上着・靴下を脱いでゆっくり休めるよう声掛け、一部介助できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	複数の職員で薬を確認。口腔内に薬を入れる介助、飲み込みまで見守り、確実に服用して頂いている。服薬情報ファイルを各ホールの職員机に設置し、内容を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業やゴミ箱作り、簡単な作業を日課として、手伝いを希望される方がいる。作品作りを通して達成感を味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症対応を取りながらドライブ、ホームのまわりを散歩。お盆には、お墓参りに連れていきたいと家族から要望があり数名の方が外出された。11月に喜寿のお祝いに1名の方が外出を予定し、家族と特別な時間を過ごせるよう配慮している。	利用者の要望を聞きながら天気の良い日に事業所の周りを散歩したり、お盆には、家族と一緒に墓参りに出かけるなど日頃から外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方のお金は、ご家族から施設が預かり管理している。一人の方は自己管理している。昨年度は施設内で売店を開設し、自由に買い物を楽しんで頂いた。10月にホームの売店を開設予定している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年度は、年賀状と暑中見舞いを作成した。利用者の中には家族からの手紙を楽しみに待っている方もいる。携帯電話を所有し、ご家族と会話されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は毎日掃除、アルコール消毒を行い、こまめに換気を行っている。室温も適温に保ち、熱くもなく、寒くもない環境を作っている。又、利用者が作成した季節ごとの飾りを展示し楽しまれたり、職員やご家族が持って来た花を活けて癒されている。	共用空間は、大きな窓ガラスがあり外の景色が見やすく大変明るい空間となっている。食事をするテーブル以外にゆったりとしたソファがあり、自由に休めるように設置されている。また、利用者が口ずさめる唱歌の歌詞が壁に貼ってありいつでも歌えるように配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に座ることができるようにソファや玄関にイスを設けている。フロア内を行き来しやすいように、ユニットの出入口を開けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いやすいように本人と相談しながら配置している。換気と掃除を毎日行い、きれいな状態を保つよう心掛けている。又、希望に沿いながら壁飾りや写真を貼っている。	利用者本人の好みの写真や手作り作品を壁に貼り付けたり、好きなぬいぐるみを飾ったりして自分の部屋としてその人らしく過ごしやすい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	余暇活動で作成した物を居室入口に貼り、自分の居室だとわかるようにしている。トイレの入口がわかるように張り紙をした。余暇活動で自分のやりたいことができるように押し入れから取り出せるよう工夫している。		

2 目標達成計画

事業所名 イエローガーデン城端

作成日: 令和 3年 11月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	利用者の思いや希望、本人から出た言葉を記録できていないため、把握が不十分である。 ケアプランに本人の思いが盛り込まれていない。	利用者の思いを把握し、その人らしく生き甲斐を持って生活できる。	①日常の会話から利用者の思いや希望、本人からでた言葉をケース記録・C-1-2シートに追記する。 ②長期目標、短期目標が関係性あるものにする。 ③ケース記録やC-1-2シートから本人の思いを拾い目標達成できるようケアプランに繋げる。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。